

最近のトピックス Topics

非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) および 非アルコール性脂肪肝疾患 (NAFLD) の名称変更と 脂肪性肝疾患の新分類

2023年6月欧州肝臓学会 (EASL) は米国肝臓病学会 (AASLD)、ラテンアメリカ肝疾患研究協会 (ALEH) と合同で、非アルコール性脂肪性肝疾患 (non-alcoholic fatty liver disease: NAFLD)、非アルコール性脂肪肝炎 (non-alcoholic steatohepatitis: NASH) などの脂肪性肝疾患の病名を変更することを発表しました。英語圏で“alcoholic (アルコール依存、俗語で飲んだくれ)” および“fatty (脂肪過多、俗語で太っちょ)” は不適切用語と見なされることが名称変更の理由です。

同発表では、脂肪性肝疾患を steatotic liver disease (SLD) と総称し、従来の NAFLD、NASH はメタボリック症候群の基準の一部 (心血管代謝リスク) を満たす場合に限定して、metabolic dysfunction associated steatotic liver disease (MASLD)、metabolic dysfunction associated steatohepatitis (MASH) と診断することになりました。また、アルコール性肝疾患は alcohol-associated (alcohol-related) liver disease (ALD)、飲酒量がアルコール性肝疾患と NAFLD の間でメタボリック症候群の基準の一部を満たす場合は MetALD、従来の NAFLD のうちメタボリック症候群の基準の何れも満たさない場合は cryptogenic SLD、薬物性、Wilson 病などに起因する場合は specific aetiology SLD と診断します。

従来 NAFLD と診断されていた方は、ほとんどが MASLD 基準にも該当します。しかし、日本人に多い痩せた脂肪肝——いわゆる“痩せ NAFLD” や“痩せ NASH” は、この MASLD 基準には該当しなくなる可能性があります。そういう方は、新しい分類では Cryptogenic SLD と診断することになります。

欧米で病名だけでなく分類も大きく変わったことから、日本でも 2023年9月29日に日本肝臓学会と日本消化器



肝臓・消化器内科部長
宮瀬 志保

病学会は共同でこれら脂肪性肝疾患の新たな病名と分類法に賛同することを決定しました。これら病名の日本語訳は両学会で検討し、ガイドラインも新たな病名と分類に従って改訂される予定です。日本への導入にあたり欧米との背景の違いも指摘されています。従来の NAFLD は、脂肪肝があって、飲酒量がエタノール換算で男性は 30g/日、女性は 20g/日未満の場合に診断されますが、新しい MASLD は心血管代謝リスクの1つを満たす必要があります。欧米3学会では心血管代謝リスクについて成人では5項目が設定されています (下記)。

1. BMI ≥ 25 kg/m² (アジア人は 23) または腹囲が男性 > 94 cm、女性 > 80 cm または民族性を調整した同等の基準
2. 空腹時血糖 ≥ 100 mg/dL または負荷後2時間血糖値 ≥ 140 mg/dL または HbA1c $\geq 5.7\%$ または 2型糖尿病と診断あるいは治療中
3. 血圧 $\geq 130/85$ mmHg または高血圧症に対する薬物治療中
4. トリグリセリド ≥ 150 mg/dL または脂質異常症の治療中
5. HDL コレステロールが男性で ≤ 40 mg/dL、女性で ≤ 50 mg/dL または脂質異常症の治療中

J Hepatol 2023;79 (6):1542-56より筆者改編

上記の基準は日本のメタボリックシンドロームの基準とは異なることや、基準の満たし方も欧米の新基準は5つのうち1つとしているのに対し、日本のメタボリックシンドロームの基準はまず腹囲を満たした上で、脂質・血圧・血糖の3項目のうち2項目以上であり、日本の基準との混同を避ける必要があります。

理念

私たち
くまもと森都総合病院は
質の高い医療を通じて
地域に愛され、親しまれる
病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんとの良好なパートナーシップを築き、満足度の高い、心かよう医療の提供に努めます。
2. 地域医療機関との連携を密にし、地域に根ざした医療サービスを推進します。
3. 優れた医療人を育成し、安全で質の高い医療を提供します。



つながる医療。ひろがる未来。

医療法人 創創会

くまもと森都総合病院

〒862-8655 熊本市中央区大江 3-2-65

TEL 096-364-6000 (代表)

FAX 096-362-5204

https://www.k-shinto.or.jp



高岡 宏和部長

診療科紹介 リウマチ・膠原病内科

診療内容：

2012年4月1日よりリウマチ膠原病内科を開設し診療内容は表記の通りで、現在リウマチ専門医2名体制で約900名の患者さんの外来および入院診療を行っております。関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、成人発症スティル病、血管炎など炎症性疾患および全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、ベーチェット病、乾癬性関節炎、体軸性脊椎関節炎といった膠原病内科の疾患を中心に他科と連携をとりながら診療にあたっています。

原因と治療：

関節リウマチや全身性エリテマトーデスは主に若い方に多い病気ですが、近年はご年配の方にもみられるようになりました。関節リウマチは遺伝する病気ではなく、たばこや歯周病などが原因の一つと言われています。リウマチ膠原病は治りにくい病気ですが、早めに診断し生物学的製剤やJAK阻害薬を開始することで治療成績がよくなりました。しかしながら診断に時間がかかりステロイド治療が長くなると、筋力が低下しますので生活習慣の改善やリハビリテーションの継続も重要です。

臨床研究：

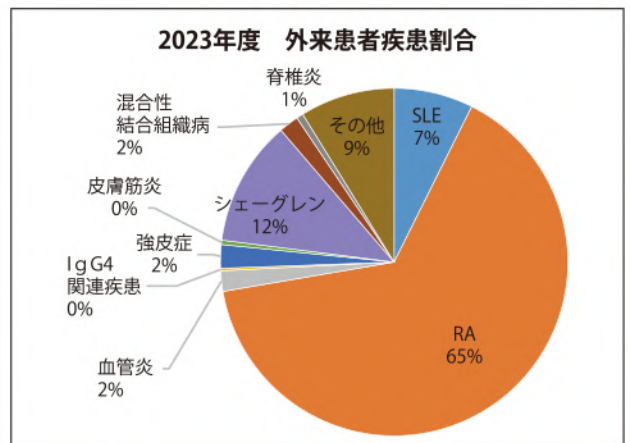
関節リウマチにおける細胞内シグナル伝達阻害剤、新たなサイトカイン阻害剤、複数の新規薬剤の臨床試験に取り組んでおりますが、最新の治療を安全に提供できるよう日々努力を積み重ねております。国立病院機構を中心とした関節リウマチの多施設共同臨床データベース（Ninja）の関連施設として全国レベルでの臨床研究も継続中で、他にも長崎大学リウマチ膠原病内科を中心とした九州地区多施設共同超音波前向きコホート研究および特定臨床研究にも参加してござ

す。また当科では患者さんを中心としたチーム医療を心がけておりますが、その中でもリハビリテーション科では関節リウマチ患者さんが罹患しやすい手指関節や足部に対するリハビリテーションの有効性について積極的な学術活動を行っており、最新の医療の提供に努めています。

病診連携：

関節痛が全てリウマチ性疾患とは限りませんが、関節の痛みを感じた場合は早めの受診をおすすめします。かかりつけの先生方と連携をとることで個々に合わせた総合診療を提供できる環境作りをすすめていきたいと思っております。すでにご協力を頂いておりますが、今後も関節リウマチをはじめリウマチ性疾患で通院中の患者さんの病診連携を継続していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(リウマチ・膠原病内科部長 高岡 宏和)



『Shinto公開医学講座』のご案内

テーマ 造影剤使用のリスクマネジメント

日時 2024年5月16日(木) 17:30～

開催方法 ハイブリッド開催 (Web参加も可能です)

場所 くまもと森都総合病院 5F 大会議室

参加方法 下記 URL もしくは QR コードよりお申し込みください。お申し込み確認後、招待メールをお送りさせていただきます。
(<https://bit.ly/49DSAJv>)

講師 放射線科 部長 幸 秀明





1

外来予約依頼書を当院へFAXをお願いします。

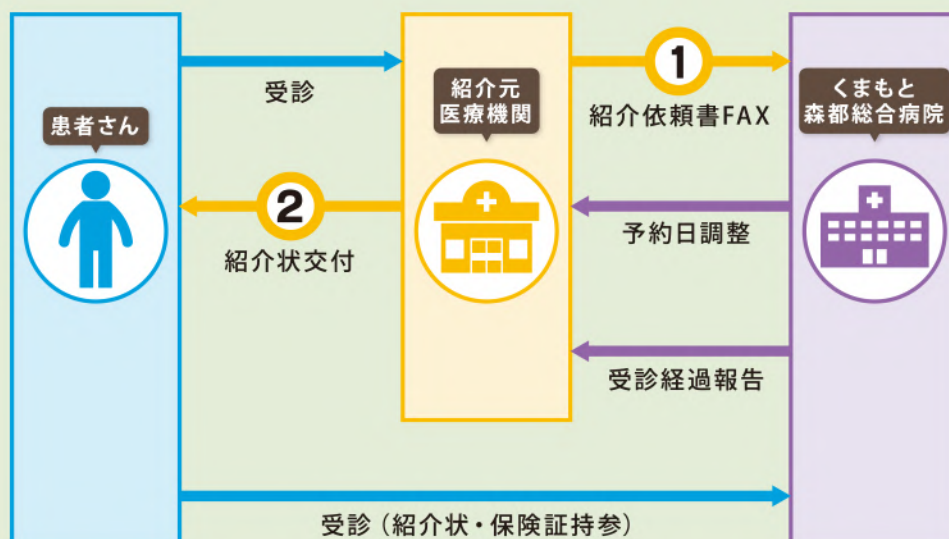
外来予約依頼書を当院地域医療連携室へFAX (096-364-8585) ください。所定書式を準備しております。当院ホームページからダウンロードも可能です。

<https://www.k-shinto.or.jp/> トップページ > 医療関係者の方へ > 患者紹介について

2

患者さんへ紹介状をお渡しいたしますようお願いいたします。

受診予定日が決まりましたら貴院へ予約票をFAXさせていただきます。
患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しいたし、受診当日にご持参いただけますようご案内をお願いいたします。



紹介予約 (FAX予約) 受付時間

平日9時00分から16時00分まで

FAX送付先 地域医療連携室

FAX 096-364-8585

※受付時間外にいただきましたFAX紹介につきましては、翌診療日に予約調整とさせていただきます。

電話紹介 について

緊急性が高く、当日受診が必要な患者さんのご紹介はお電話にてお願いいたします。

ご不明な点につきましては下記までお電話くださいますようお願いいたします。

地域医療連携室 Tel.096-364-9790 Fax.096-364-8585

受付時間 午前 8:00 ~ 11:00 (再来機の受付は7:30より開始) ※急患はこの限りではございません

2024年5月1日現在

		午前/午後	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科診療：午前〔初診及び再診〕・午後〔再診のみ〕								
総合診療科	午前		濱 諒輔 初診	吉田 健	宮村 智裕	吉田 健	宮村 智裕	
			宮村 智裕 再診	濱 諒輔	吉田 健 再診		濱 諒輔	
	午後				宮村 智裕 再診	診 問		
肝臓・消化器内科	午前		藤山 重俊 袖留木 秀人	宮瀬 志保 泉 見奈	藤山 重俊 東野 奈津己	宮瀬 志保 東野 奈津己	袖留木 秀人 泉 見奈	
	内視鏡担当	午前	宮瀬 志保 東野 奈津己 泉 見奈	東野 奈津己 袖留木 秀人	宮瀬 志保 袖留木 秀人 泉 見奈	袖留木 秀人 泉 見奈	袖留木 秀人 泉 見奈	宮瀬 志保 東野 奈津己
血液内科		午前	藤原 志保 大徳 勇人	藤原 志保 鈴島 仁 宮川 寿一	下村 泰三 渡邊 祐子	藤原 志保 渡邊 祐子	藤原 志保 渡邊 祐子	下村 泰三 宮川 寿一
	午後	下村 泰三	渡邊 祐子		宮川 寿一 鈴島 仁	大徳 勇人		
腫瘍内科	午前	山本 春風					山本 春風	
	午後		山本 春風					
循環器内科	午前	中村 尚太			中村 尚太	中村 尚太	中村 尚太	
	午後	中村 尚太			中村 尚太			
腎臓内科	午前					水足 謙介	水足 謙介	
	午後	水足 謙介						
リウマチ 膠原病内科	午前	高岡 宏和 初診	高岡 宏和 再診			高岡 宏和 再診		
	午後			高岡 宏和 再診				
呼吸器内科	午前			古川 嗣大 (熊大) 再診				
代謝・内分泌内科	午後			有馬 由佳 (熊大) 再診				
外科	午前	横山 幸生 田嶋 ルミ子	手術		横山 幸生	横山 幸生	田嶋 ルミ子	
	午後	手術 検査	手術	手術 検査	手術 検査	検査		
乳腺センター (乳腺外科)	午前	初診担当医 再診	手術	初診担当医 再診	手術	初診担当医 再診	手術	
	午前 8:30 ~ 12:00 午後 14:00 ~ 16:00 (完全予約制)	午後	大佐古 智文 中野 正啓 藤末 真実子	大佐古 智文 中野 正啓 藤末 真実子	大佐古 智文 中野 正啓 藤末 真実子	大佐古 智文 中野 正啓 藤末 真実子	大佐古 智文 中野 正啓 藤末 真実子	大佐古 智文 中野 正啓 藤末 真実子
		午後	永井 隆司 岡島 翠	永井 隆司 岡島 翠	永井 隆司 岡島 翠	永井 隆司 岡島 翠	永井 隆司 岡島 翠	永井 隆司 岡島 翠
産婦人科	午後	片淵 秀隆 (女性相談外来) 手術	片淵 秀隆 (女性相談外来) 手術	手術	片淵 秀隆 (女性相談外来) 手術	永井 隆司 予約 岡島 翠 検査		
	整形外科 (完全予約制)	午前		砥上 若菜 再診	高田 興志 再診			
リハビリテーション科	午後					担当医 再診		
眼科 (完全予約制)	午前				細川 浩 再診			
	午前	草野 雄貴 藤崎 雅彦 松本 光希	草野 雄貴 藤崎 雅彦 松本 光希 9:30 診療開始	草野 雄貴 藤崎 雅彦 9:30 診療開始	手術	草野 雄貴 藤崎 雅彦 9:30 診療開始		
		午後	手術	担当医 再診	手術	手術	手術	
皮膚科 (完全予約制)	午前	田中 憲一郎 松崎 恵里奈	松尾 敦子 松崎 恵里奈	松尾 敦子 田中 憲一郎	訪問診療	城野 昌義 再診 田中 憲一郎	松尾 敦子 松崎 恵里奈	
	午後		手術			回診	手術	
緩和ケア科	午前	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	
腫瘍精神科	午前	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	
麻酔科 ペインクリニック (完全予約制)	午前	洲崎 祥子 田口 裕之 (術前診療)	洲崎 祥子 田口 裕之 (術前診療)	田口 裕之 洲崎 祥子 (術前診療)		田口 裕之 (術前診療)	田口 裕之 (術前診療)	
禁煙外来 (予約制)	午前						田口 裕之	
放射線科 (幸秀明・西東葉子)	午前	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	